

すずき けんたろう
鈴木 謙太郎

木戸川漁業協同組合 鮭ふ化場長 鮭中間育成場長

昭和 57 年（1982）、いわき市生まれ。

いわき海星高校卒業後、2000 年に木戸川漁業協同組合入組。

木戸川は、震災前まで毎年 1,500 万尾の稚魚を放流し、
多いときで 10 万尾を超えるサケが戻って来ていました。

秋は遡上するサケで川底が見えないほど。

しかし東日本大震災の大津波による被害と原発事故で、
ふ化と稚魚の放流が 4 年間できませんでした。

事業再開に向け放射性物質の調査をいち早く始めたかったのですが、
^{ならばまち}楢葉町は警戒区域指定、調査が認められませんでした。

2012 年に昼間の立ち入りが可能になったため、県の許可を得て

モニタリング調査を開始。その年に木戸川に帰ってきたのは震災前に放流したサケ。

100 尾ほど捕獲して調べたところ放射性物質は ND（不検出）でした。

翌年、翌々年の調査でも結果は同じ不検出。

サケは放流から 4 年後に、産卵のため育った川に帰ってきます。

調査する中、数の減少を感じて「早く再開しないとサケがいなくなってしまう」と
不安でした。2015 年にやな場を設置し事業を再開しましたが、戻ったのは 8,443 尾。

でも放流できなかった間に自然産卵で戻っているサケもいて、

「やはり木戸川はサケのふるさと、いい川なのだ」と改めて思いました。

震災前のようにはまだいきませんが、たくさんのサケが戻ること、
町も活気づいていけばいいなと思っています。



2018 年 3 月、木戸川への稚魚放流。
子どもたちもサケも元気に大きく育て